

即ち労働農民を以て組織された農民労働者と共に一切の無産階級要素を政治の我線に動員して之を鞏固に結合するところの、真に全階級的大衆的政黨に實質を備へせしめると同時に、封建的反動勢力の遺物と結合した帝制主義的資本主義の反動政治に對する、無産階級の闘争を指揮する有力な指導勢力たることをめざすこと、は、吾等へ任務である。

労働農民黨の成立は、日本の無産階級政治運動の第一歩に於ける偉大な成功である。然し、この成功は、眞實の成功たるに非ず、労働農民黨を以て眞實に全階級的大衆的の統一政黨たるにせしめられたるには、今後尚ほ数年間に亘る不断的努力の多数の犠牲とを必要とする。又階級の陰謀術策謀に乘れつゝ、階級を粗つてゐる、之に應じて無産階級の協同戦線をその内から破壊し、攪亂し、若しくは消極的にこれを妨害せんとする勢力は、絶えず策動の機会を窺つてゐる。思ふに單一無産政黨は今日以後に於て、今日までより劇々進んだ危機と難關とに夏に幾倍する危機と難關とを克服し、おければならぬ。我等は日本の無産階級の階級意識と團結の精神とによつて、労働農民黨がよき是等の危機と難關とを征服して、健全な進歩を遂げ、これを確信すると同時に、大なる覚悟と周到な注意とを以て、この偉大な事業に協力し、おければならぬ。要するに労働農民黨の成立は吾等の事業を終了しておくて、その発端である。吾等は單なる一時的な感激を以て労働農民黨の成立を歡迎し、おければならぬ。確乎たる方針と不撓不屈の努力とを以てその發達に協力し、おければならぬ。確乎たる方針と不撓不屈の努力とを以て、日本労働組合評議會第二回大會は、労働農民黨の成立に對して滿腔の祝意を表すや、同時に、悲しむべき事情のため、今日尚ほその門戸が全無産階級に向つて開かれて居ることと遺憾とするものである。この事實は、たまたま無産政黨の歴史の上の一汚点を残すもので、おはからず。

吾等は労働農民黨執行委員會の謙意に信頼し、最も近き機会に於て、此制限の撤廃せられんことを希望するものである。

大正十五年四月 日本労働組合評議會十五年夏大會

一八

- (1) 交通労働者の傷害事故に對し特別文利設置の件
- (2) 交通労働者職務上より起る一般事故の経済的損害に對し雇主の全額負担の件
- (3) 職務上より來る疾病並に傷害に對し雇主が其の生活保証の件
以上(中部交通提出)
- (4) 休日及臨時休業中の給料支給の件
(神戸地方提出)

以上四件一括上程、第一案に就きては、過般の箱根電車の顛覆事件の真相を説明し、運輸手帳の過失なきこと、明瞭なるに拘はらず、猶其の罪責を負担せんとする、實状に鑑み、特殊文利所の必要切ありと力説し、該文利所の構成には關係労働者をも加ふることを條件として右四案一括可決。

- 一九、未組織労働者組織の件 (廣島合同提出) 可決。
- 二〇、(1) 総聯合並に産業別合同に要する決議案 (本部提出) 可決。
- (2) 産業別合同提唱の件 (大段造機船提出) 可決。
- (3) 合同労働組合内の産業別の全心的結合促進の件 (中部合同提出) 可決。